

中長期目標 (学校ビジョン)	学び 輝き 感動のある学校 幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、よりよく生きることができるようにする学校 《 18歳で自立できる人を育てる ～将来を見とおした今のQOLの向上～ 》	今年度の重点目標	1 幼児・児童・生徒一人一人が「いきいきと学ぶ」教育に努める。 2 幼児・児童・生徒の健康と安全を守る。 3 保護者の願いや地域の期待に応える。 4 センターの機能を推進する。 5 開かれた学校を推進する。
-------------------	--	----------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 ( 9 ) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
一人一人が「いきいきと学ぶ」教育の充実	小学部 病状や実態に応じた支援や教育の工夫	○児童の不安軽減のため、場面に応じた具体的な支援を工夫することで、登校が安定し、活動の幅が大きく広がった。 ○将来の進路を見据えて、他者と協働して学習や活動に取り組む経験を広げる必要がある。	○分校内の協働的な学習や本校児童との交流を通して安心してかかわれる人や場が増え、成功体験を重ねて自信をつけ、安定した気持ちで学校生活を送ることができている。	○中学部生徒や複数の教職員とかかわりながら学習する場を計画的に設定する。 ○本校児童との交流を深め、同世代との学習に複数回取り組む。 ○保護者、医療、スクールカウンセラーとの連携を密にして病状を的確に把握し、不安がコントロールできるように支援する。	○学校行事や自立活動で、中学部生徒とのかかわりを考慮した学習を計画的に実施した。内容によっては緊張や不安が高まることもあり、更に配慮や工夫が必要である。 ○本校児童と遠隔教育による道徳の学習を2回実施し、意見交流することができた。 ○5月頃より不安が高まり不安定な状態になった。保護者、医療、スクールカウンセラーと相談を重ね、病状に応じた調整や柔軟な対応を行っている。	C	○学習発表会に向けた取り組みの中で、中学部生徒や教職員とのかかわりが深まるようにする。その際、グループ編成、活動内容や量を調整して不安を軽減し、成功体験につながるように配慮する。 ○本校の児童とは、遠隔教育による道徳の学習を中心に交流し、同世代との温かなかかわりが深まるようにする。
	中学部 自己理解に基づく心の安定と意欲を高める支援の充実	○生徒に寄り添いつつ心の安定を図り、様々な取り組みをやり遂げることで自信につなげ授業への出席率が上がった。 ○苦手なことに対して折り合いをつけ、自分に合った方法を見つけて取り組もうとする気持ちにさせる必要がある。	○授業の出席率が上がった状態を維持し、進路に向けて自己の課題を認識し、自分に合った方法で苦手なことにも取り組めるようになってきている。	○アンケートを工夫し、カウンセリングや面談を通して自己理解を深める。 ○他者理解と経験を深めて、お互いを大切にしようことを学ぶために、本校生徒との交流を複数回取り組む。 ○本人、保護者、教職員が生徒の病気や学習状況を共有し、情報交換しながら個に応じた学習指導や進路指導に努める。	○アンケートに「自分メーター(自分に関する6つの項目を5段階評価し視覚化したもの)」を取り入れ、それをもとにカウンセリングや面談を行い自己理解が深まるようにした。 ○本校との交流を始めるにあたり、自己紹介ビデオを交換するなど出会うの場を大切に、「ポッチャ」を通して相手を思いやりながら楽しく活動できた。 ○7割の生徒は授業への出席率が安定しているが、あとの生徒は低い状態のままである。	C	○これまでの取り組みを継続し、心の安定を図りながら個に応じて経験できるように提案交渉し、生徒自身が自信を持てるようにしていく。 ○学期ごとに「自分メーター」に取り組み、自分の成長や課題を本人が視覚的にとらえられるようにする。そしてカウンセリングや面談を通して自分の課題の克服に向けて段階的に支援する。 ○福祉や医療の専門機関との連携を強化しつつ、生徒・保護者とのつながりを大切にしていく。
ニーズに対応できる専門性の向上	研究部 深い学びにつながる交流と授業改善	○児童・生徒の心の安定を図ったり、ICTを有効に活用して授業改善したりすることができた。 ○自分の思いを出せるようになってきたが、「主体的・対話的で深い学び」には実態に応じ、段階を追って取り組む必要がある。	○本校との交流が活かされている形で、児童・生徒の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業改善がなされている。	○児童・生徒の実態に応じた専門的な研修・ICT研修への参加及び授業や行事等での実践を行う。 ○皆浜分校の一員としての自覚と誇りを持つことができる学習や定期的な交流を取り入れる。	○支援部や情報担当、外部機関と相談をしながらICT研修や理論研修を行った。また、夏季休業中の本校研修にも参加した。 ○本校との交流や分校での行事・学習を通して、分校の一員としての自覚が芽生え、温かい交流ができつつある。2学期には教頭が分校児童生徒に「自分の学校を知る」授業を実施予定。	C	○校内研究の年間計画を立てて、順次行っていった。今後の研修もより良いものになるように校内に周知し、積極的に参加できるようにする。 ○本校と各学年が実態に応じた交流や見学を行った。2学期以降も定期的に交流し、より深い交流になるよう取り組む必要がある。
	支援部 将来につながる教育相談と進路指導の充実	○研修や実践を通して病状や障がいの特性への理解、支援について共通認識ができた。 ○本校や関係諸機関と連携を密にし、適切な教育相談を行って将来を見据えた進路指導の充実を図る必要がある。	○専門性の向上により児童生徒や保護者との確かな信頼関係が築かれ、キャリア教育の視点に立った適切な進路指導により、アンケートでの満足度も高くなっている。	○教育相談、病気や障がいの特性についての研修を工夫し、専門性を向上させることで、日常的教育相談を充実させる。 ○本校、医療、福祉、スクールカウンセラー等と連携して継続的な支援を行い、卒業後を見据えた適切な進路指導を行う。	○研究部と連携し、発達障がいについてシリーズで研修した。また、教育相談について適時資料を配布した。病気や障がいの特性を踏まえた上で、児童生徒や保護者の状況に応じた支援がなされており、アンケートでも支援について肯定的な評価が多い。 ○卒業後の進路について、関係諸機関の協力を得て相談や検討をしている。今後さらに検討を重ねる必要がある。	C	○スクールカウンセラーにも発達障がいの研修に参加してもらい、思春期における児童生徒へのかかわり方のポイントについて助言指導を受ける。 ○卒業後の進路について本人・保護者との合意形成が図れるように、本校、関係諸機関と密に連携して学びの場等を検討する。
学校生活における安全の確保と健康と	健康安全部 ○心身ともに良好で、登校して学習や行事に意欲的に参加できる環境づくり	○緊張の連続、疲れ、不安などから学校や学習、行事などに向かない子がいる。 ○心の問題が体に表れるので健康観察を丁寧に実施し、その日の児童生徒の心身の状況を把握し、支援する必要がある。	○児童生徒の心身の状況を把握することで、無理のない形で授業や行事に参加できる環境が整い、出席率が上がっている。	○朝の健康観察の他にも常時心身の状況を把握し、情報を共有して支援に努める。 ○安心して学校で過ごせるよう自分の心身の状況を訴えることができ、共に考え解決できるよう支援していく。	○無理をせず休養を入れることで長期欠席にならずにいる。 ○心配な児童生徒の情報が速やかに共有され支援に活かされている。 ○児童生徒理解のための研修を受け、校内でも報告することができた。	B	○困っている事が言えない子がいるので、自分の心身の状況を理解できるように支援し、自分に合った休養の仕方を考え調整できるようにする。 ○体調不良の訴えの背景にある心の不安要素を受け止め、安心して登校できる、その子に合わせた指導や環境づくりに努める。

